

横浜市介護支援専門員連絡協議会 連絡協議会議事録

会議名	平成 29 年 11 月 定例会		
開催日時	平成 29 年 11 月 17 日(金)	18:30~20:45	開催場所 横浜市社会福祉センター9 階
議 題	1	健康福祉局との意見交換	
	2	情報提供	
	3	平成 30 年度 YCM 代表候補及び役員候補について	
	4	各委員会報告	
	5	その他連絡事項	

No	議 題	内 容
1	健康福祉局との意見交換	<p>「第 7 期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成 30 年度~32 年度) (素案)」について (健康福祉局高齢在宅支援課 賀谷課長・正木係長 同高齢健康福祉課計画調整係 喜多係長)</p> <p>上記素案(よこはま地域包括ケア計画)について、冊子をもとに説明を受け、意見交換を行う。</p> <p>主として以下の項目について質問・意見を伝え、返答などを受ける。 「健康福祉局の発言は「局」、YCM の発言は「Y」と表記する」</p> <p>① Y:「元気づくりステーションの推進」について、認知症の方も対象にする と良いと思う。</p> <p>局: 認知症予防で行っている活動もある。幅を持った活動を心掛けたい。</p> <p>② Y:「住民主体による活動の支援」について、実際に必要性はあるが、 現場ではこうしたものが形になるまで、何年も待つことはできない。 もっと切羽詰っているのが実情である。</p> <p>③ Y:「24 時間対応可能な地域密着型サービスの推進」について、 小規模多機能型居宅介護は人材確保ができず、閉鎖している実情 がある。また、メリットばかりが強調されて、「訪問」があまりできない ことなど、デメリットが伝えられていない。</p> <p>局: 作るだけでなく、PR にも力を入れる Y: その際には、現状に即した PR をすることが必要である。</p> <p>④ Y:「地域ケアプラザの強化(質の向上)」について、地域包括支援センター (包括と略す)によっては、困難ケースと一緒に対応してもらえないこ ともある。そこには、包括があまりに多忙な状況にあり、職員が健康 を損ねて辞めてしまう実情もある。ケアマネジャー支援をする包括 の立場を、もっと守る必要がある。また、包括内でも相談対応がし 切れていなかったり、明らかに人員不足の状況もある。行政が包括 に丸投げしている状況もある。そうしたことの改善こそが必要であ る。</p> <p>⑤ Y:「成年後見制度の利用促進」について、一人暮らしで身寄りのない方 が増えている状況の中で、区長申立てなど、もっとスピーディーな対 応が必要である。ケアマネジャー一人では、あまりにも負担が大き すぎる。</p>

No	議 題	内 容
		<p>局：区長申立ての手続きに、一定の時間がかかることはご理解頂きたい。ケアマネジャーにしわ寄せがきている状況は理解している。何とかしたいと考えている。</p> <p>⑥ Y:「本人の自己決定支援(エンディングノート等の作成と普及等)」について、エンディングノートという名称は、考えた方が良くと思う。 局：終末期を想像させる名称であるのご意見を頂いており、検討する。</p> <p>⑦ Y:「集いの場の活動支援」について、志しあるケアマネジャーなどが行いたいと思っても、場所がなく、建物も借りられないのが現状である。 局:「集いの場」は重要と考えているが、まだ行政にもノウハウが蓄積していない。</p> <p>⑧ Y:「特別養護老人ホームの整備」について、「施設を作っても、そこで働く人をどう確保するのか」「実際に入所する方は、負担額が一番の条件となるので、本当にユニット型施設を望んでいるのか、精査が必要ではないか」「サテライト型は良いので、もっと作るべきではないか」。 局:人材確保は最重要課題と考えている。県の基金に人材確保策があるが、それを待つだけでなく、市としても市費を投じてやっていこうというところ。その他の意見も参考にさせていただきたい。</p> <p>⑨ Y:「新たな介護人材の確保」について、介護分野の専門学校でも生徒がいなく、外国人が増えている。今後の対応として、どのように考えているか。 局:若者へのイメージ戦略として、ユーチューブ動画の活用を検討している。また、外国人への日本語学習支援も検討している。</p> <p>⑩ Y:「経営者向け研修」について、市からのメールは管理者宛に送信されるが、法人経営者には送信されない。経営者にも送信できないか。 局:難しいと思うが、持ち帰り検討する。</p> <p>⑪ Y:「適正なサービス利用と給付費の支払」について、「サービス利用状況のお知らせ」は現在も利用者に送付されているが、何か変更があるのか。 局:利用者に送付することに、変更はない。費用対効果を考えて、データを活用して送付対象者を絞るなど検討している。 Y:「介護保険負担割合証」も含めて、市からの送付物は利用者も意味が分からず、トラブルが生じて、ケアマネジャーと利用者の信頼関係が損なわれることがある。そうしたことも考慮してほしい。</p> <p>⑫ Y:利用者や家族で日本語が分からない方も増えている。実際に、「外国語の分かるヘルパーはいないか」などの問い合わせもある。 市として、外国語翻訳機などの導入を考えられないか。 局:「地域ケア会議であげる」「国際交流ラウンジの活用」などを考えてほしい。</p>
2	情報提供	<p>① 「在宅高齢者訪問歯科健診等モデル事業について」 (健康福祉局高齢在宅支援課 正木係長・北村氏) 目的:通院が困難な在宅高齢者を対象に、訪問歯科健診を行うことで、早期対応及び口腔機能の改善をはかる。 対象:75歳以上で要介護3以上の方 現在、医療保険や介護保険で歯科治療や管理を受けていない方 費用:無料 申込:横浜市歯科医師会歯科医療連携室 ☎0120-814-594</p> <p>② 「社会福祉法人による利用者負担軽減事業の申請窓口の変更について」 (健康福祉局高齢施設課 田島係長 山野辺氏) 平成29年12/18以降、「介護サービス自己負担助成」の発行を区役所保</p>

No	議 題	内 容
		<p>陰年金課の窓口で行うことになったため、健康福祉局高齢施設課で所管している「社会福祉法人による利用者負担軽減」の申請は、全て健康福祉局高齢施設課に申請書類を郵送して頂くことになる。</p> <p>問い合わせ先:健康福祉局高齢施設課 ☎045-671-3923</p>
3	平成 30 年度 YCM 代表候補及び役員候補について	<p>平成 30 年度 YCM 代表は、満場一致で加藤現代表の再任を支持する。</p> <p>→加藤代表より、「来年 2 月までに、役員と検討し、副代表などを検討する。なお、各委員会委員長に関しては、各委員会で検討を願う」とのこと。</p>
4	各委員会報告	<p>① 医療連携委員会(小泉氏)</p> <p>認知症疾患医療センターでの議題として、「今後のセンターの役割の周知・センターと認知症サポート医の連携をどのように進めるか」が上がっている。意見があれば、求めたい。</p> <p>→「認知症の原因疾患により、症状や対応が違うのに、医療側の方が理解が乏しい」「認知症サポート医の役割を含めて、医師向けの研修が必要である」</p> <p>② 制度対策委員会(佐藤氏)</p> <p>12/15(金)を締切とし、末期がんに関するアンケートを集計し、医療局へ提言する。</p> <p>③ 広報委員会(小松氏)</p> <p>1.年賀状準備を進めている(関係団体と協賛団体に送付)。 2.来年度協賛団体を募集する。目標は 30 団体。 3.YCM チラシ作成のために、来年度総会概要を 12 月末までにお知らせ願いたい。 4.2019 年 4/15 でサイボウズが終了となる。今後どうするかを検討する。 →1 ユーザー 500 円/月となり、年額では 30 万円になる。ライセンス購入などの方法もあり、検討と対応は広報委員会に一任とする。</p> <p>④ 会計(植村氏・佐藤氏)</p> <p>YCM 全体会議参加に関して、出席表と交通費表を刷新した。</p> <p>⑤ 事務局(原田氏・佐藤氏)</p> <p>特になし。</p>
5	その他連絡事項	<p>① 平成 30 年度総会について(南区中島氏)</p> <p>会場は「開港記念館」で進めている。もしも無理ならば、東部ブロック区の公会堂で行う。基調講演に関しては、現在検討していて、12 月末までには決める。</p> <p>② 29 年度第 1 回協力団体会員会長会議について(加藤代表より)</p> <p>11 月にウヰリング横浜にて、意見交換会が開催された。</p> <p>30 年 1/17(水)に県協会祝賀会の予定 (場所:ロイヤルホール横浜・会費 5000 円)</p>

次回:29 年 12 月 15 日(金)19 時から
横浜市社会福祉センターにて